

熱中症による救急搬送の状況

救急企画室

1 はじめに

消防庁では、平成20年度から全国の消防本部を対象に熱中症による救急搬送人員数の調査を行い、全国で毎年4万人以上の方が熱中症により救急搬送されています。今年度は、4月30日から調査を開始し、7月22日までに43,813人(※速報値)の方が熱中症で救急搬送され、昨年度の同時期と比較して17,612人増加しました。

特に、7月16日から7月22日までの週の搬送人員数は22,647人で、平成20年の調査開始以来、週単位で過去最多を記録しました。今後も35℃以上の猛暑日が続く所もある見込みですので、更なる熱中症に対する予防が

必要であり、住民の熱中症に対する関心を高め、あらゆる機会を通じて積極的に予防啓発を行っていただくことを目的として、今年度の熱中症による救急搬送状況・予防等についてお伝えします。

2 熱中症による救急搬送状況

① 週別の推移(図1)

7月に入り搬送人員数が増加しています。特に、7月9日から15日までの週の搬送人員数は9,956人、7月16日から22日までの週の搬送人員数は22,647人と急激に増加しています。

平成30年の熱中症による救急搬送状況(週別推移)

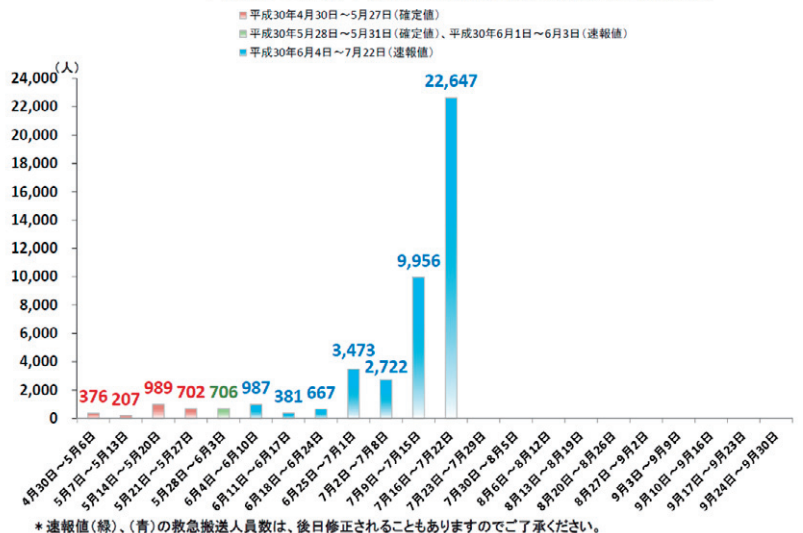


図1

平成30年 都道府県別熱中症による救急搬送人員数 合計搬送人員数 前年との比較(4月30日から7月22日)

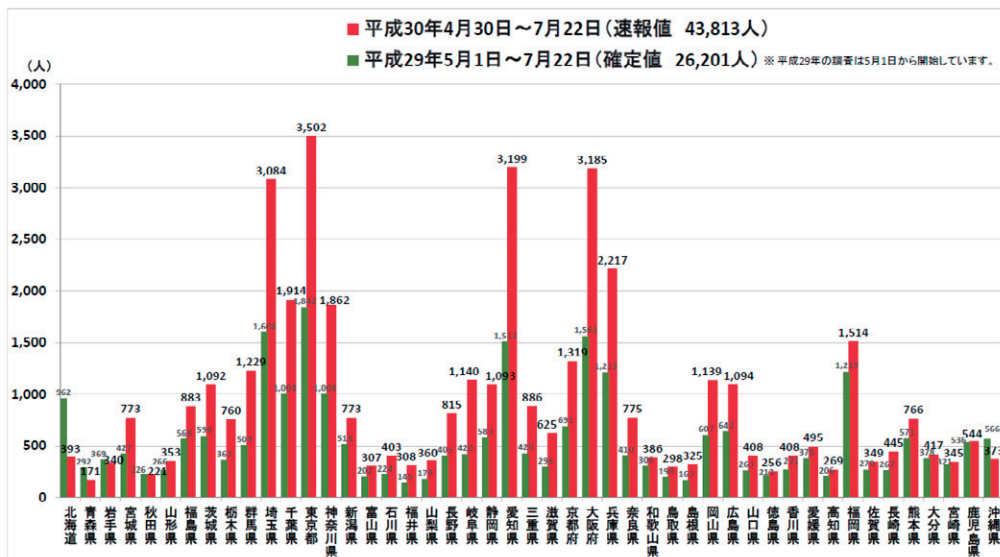


図2

② 都道府県別の合計（図2）

4月30日から7月22日までの熱中症による救急搬送人数の合計43,813人のうち、東京都が3,502人と最も多く、次いで愛知県3,199人、大阪府3,185人、埼玉県3,084人、兵庫県2,217人となっています

③ 年齢区分ごとの救急搬送人員数（図3）

4月30日から7月22日までの熱中症による救急搬送人数の合計43,813人のうち、高齢者が20,928人と最も多く、次いで成人15,573人、少年6,817人、乳幼児494人、新生児1人となっています。救急搬送人員数の半数近くを高齢者が占めます。高齢者は暑さやのどの渇きを自覚しにくいなど体の変化に気づきにくい傾向があるため、周囲の方がこまめに声をかけて、水分補給や暑さ対策などの予防行動を促すことが大切です。

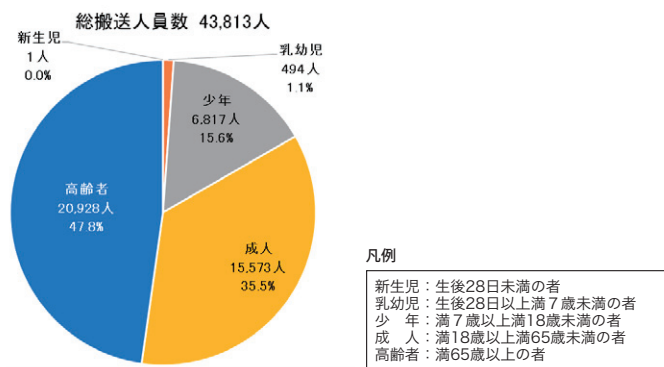


図3

④ 傷病程度ごとの救急搬送人員数（図4）

4月30日から7月22日までの熱中症による救急搬送人数の合計43,813人のうち、軽症（外来診療）28,170人と最も多く、次いで中等症（入院診療）14,074人、重症（長期入院）1,110人、死亡86人となっています。熱中症の症状は、年齢や持病など傷病者の背景の違いにも影響を受け、刻々と変化します。中には、短時間で重篤な状態に陥る場合もありますので十分に注意が必要です

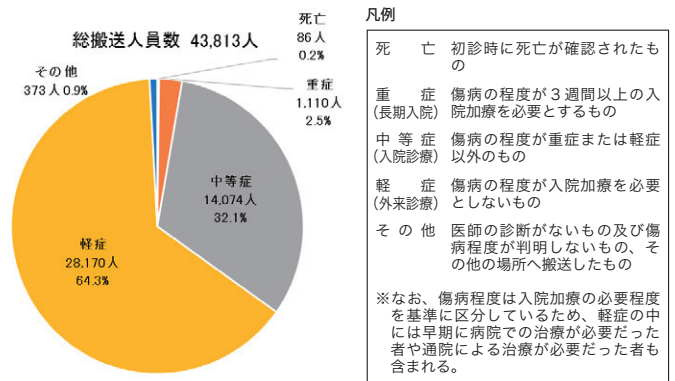


図4

⑤ 発生場所ごとの救急搬送人員数（図5）

4月30日から7月22日までの熱中症による救急搬送人数の合計43,813人のうち、住居が16,867人と最も多く、次いで道路5,882人、公衆出入り場所（屋外）5,833人、仕事場①4,512人、公衆出入り場所（屋内）3,799人となっています。

※仕事場①とは道路工事現場、工場、作業所等

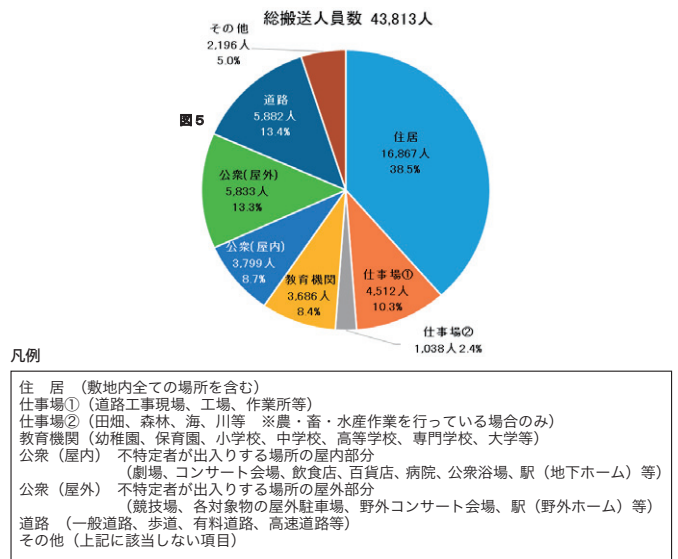


図5

3 熱中症予防のポイント

熱中症は予防が大事です。熱中症にならないために、以下の項目に心がけましょう。

- ・部屋の温度をこまめにチェックしましょう。
- ・室温28℃を目安に、エアコンや扇風機を上手に使いましょう。
- ・のどが渇かなくてもこまめに水分補給をしましょう
- ・外出の際は締めつけない涼しい服装をしましょう。また、日よけ対策も行いましょう。

- ・無理をせず、適度に休憩を行きましょう。
- ・日頃から栄養バランスの良い食事と体力づくりをしましょう。

4 消防庁の熱中症予防啓発の取り組みについて

消防庁では、熱中症予防啓発を目的として、消防庁HPの熱中症情報サイトに、予防啓発コンテンツ（熱中症ポスター、ビデオ、イラスト、メッセージ、リーフレット）を提供しています。

同サイトにはあわせて、都道府県や消防本部による熱中症予防啓発の取組事例集を掲載していますので、各消防本部は、取組事例集を参考に、必要な場面に応じてコンテンツを御活用ください。

5 おわりに

熱中症は正しい知識を身につけ、適切に予防することで、未然に防ぐことが可能です。また、周囲の気遣いで熱中症になりやすいとされる高齢者や子供を守ることができます。

消防庁では、全国の消防本部と連携をとりながら、暑さが続く夏に対して、引き続き予防啓発に努めていきます。

消防庁熱中症情報 http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

※ 熱中症予防啓発のコンテンツは、このURL内に掲載しています。

熱中症を予防して元気な夏を!

夏に向けて、熱中症になる人が増えてきます。熱中症を知って、しっかり予防し、楽しい夏を過ごしましょう!

このリーフレットでは、熱中症の症状や応急手当を紹介しています。

救急車を呼んで、一刻も早く病院へ行く必要のある状態や、症状についても紹介しています。当てはまる場合は、急いで119番しましょう。

※消防庁が作成した全国版救急受診アプリ「Q助」や「救急利用リーフレット」も合わせてご覧ください。（上記のQRコードをスマートフォンなどで読み取ることで、簡単に接続できます）

Q助サイト | 救急車利用リーフレット

消防庁 <http://www.fdma.go.jp/>

子供の特徵

汗腺などが未熟
地面の照り返しにより、高い温度にさらされやすい
体温調節機能が未熟なため、熱中症にかかりやすい

保護者の方へ

- お子さんの顔色や汗のかき方を十分に観察しましょう!
- 遊びの最中には、必要に応じて水分補給や休憩をとらせましょう!
- 日頃から外遊びをさせて、暑さに慣れさせましょう!
- 外出時は熱のこもりやすい服を避けて、帽子をかぶりましょう!

高齢者の特徴

のどの渇きを感じにくい
暑さを感じにくい
汗をかきにくい
体温を下げるための体の反応が弱くなっており、自覚がないのに熱中症になる危険がある

熱中症にならないために

- 室温をこまめにチェックし、エアコンや扇風機等を活用!
- のどが渇かなくても水分補給をしましょう!
- 脚子が悪いと感じたら、家族や近くの人にそばにいてもらいましょう!

熱中症の応急手当

- 涼しい場所や日陰のある場所へ移動し、衣服を緩め、安静に寝かせる
- エアコンをつける、扇風機・うちわなどで風をあて、体を冷やす
- 首の周り・脇の下・太もものつけねなど太い血管の部分を冷やす
- 飲めるようであれば水分をこまめに取らせる

持病をお持ちの方やお子さんは、かかりつけの医師とあらかじめ相談し、熱中症対策についてアドバイスをもらっておきましょう

熱中症予防対策リーフレット

問い合わせ先
消防庁救急企画室
TEL: 03-5253-7529